

<フィリピン事業> 「新型コロナウイルス緊急物資配布を実施」



ICAN マニラ事務所
福田 浩之
～プロフィール～
フィリピン大学修士
課程、ICAN マニラ事
務所インターンを経
て、2013年4月に入
職。社会福祉士。

現在、世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルスですが、フィリピンでは3月初めより感染が拡大してきました。感染拡大防止のために、マニラ首都圏は3月15日から5月31日まで封鎖され、外出制限の措置が取られています。その影響で、路上での物売りや物乞いで収入を得ていた路上の子どもとその家族や、ゴミの廃品回収で稼ぎを得ていたゴミ山付近の住民は収入を失い、満足に食事を取ることができず、命が危険に晒されています。

そこで、アイキャンではこれらの人々の命を繋ぐため、4月16・17日にかけて米10キロ・缶詰10缶・石鹸1個を合計75世帯(約450名)に配布しました。私と看護師である現地職員が提供地域に到着すると、1人のお母さんは安堵の表情を浮かべて私たちに駆け寄り、「外出禁止になって以降、自治体からもらったのは、お米3キロと缶詰3個のみ。子どもたちに満足な食事を取らせることができないの。」と訴えかけてきました。路上の子どもたちは、「僕の家族は家がないから、自治体から物資はもらえない。」と話し、同じような状況にある他の路上の子どもと助け合いながら毎日1食のみで過ごす日々を送っていました。私たちは、一人ひとりの話に耳を傾けながら物資を配布し、子ども達には石鹸を使った正しい手の洗い方と感染予防対策についての教育も実施しました。

今回の活動実施に至るまでには葛藤がありました。日々関わっている事業地の人々の厳しい状況を何とかしたい一方で、同僚に感染のリスクを負わせたくないという思いもありました。この複雑な思いを同僚に相談したところ、物資配布を行いたいという同僚の熱意に後押しされ、万全の感染予防対策を講じて活動を行うことになりました。具体的には、マスクの装着・人々との距離の確保・物資を一世帯へ配る度に手の消毒等を行いました。



マニラ首都圏の都市封鎖は、当初4月14日まででしたが、2度延長され、依然として人々にとって困難な状況が続いています。また、フィリピンだけでなく、イエメンやジブチの難民キャンプでも感染リスクが高まっており、食糧が行き渡っていない状態にあります。今後、感染防止対策リーフレットの配布を通じた啓発活動や、食糧や石鹸等の配布を予定しています。日本においても、新型コロナウイルス感染が拡大しており、皆さまも大変な状況に置かれていると思いますが、私たちも事業地のパートナーの人々と大変さを分かち合って、この危機を乗り越えたいと思っていますので、皆さまのお力添えをどうぞよろしくお願い致します。

ある日のスケジュール

- 8:30 事業進捗確認
- 9:00 活動報告書、会計資料確認
- 11:00 スタッフミーティング
- 13:00 事業地訪問
外部打ち合わせ
- 15:00 活動のモニタリング
- 16:00 報告書作成
- 17:30 帰宅

ジブチ事業

4月/アリアデ・ホルホル・マルカジ(ジブチ)

ジブチ国内3つの難民キャンプにおいて家庭訪問を実施



ジブチでは新型コロナウイルスの影響により、4月中は集まって行う活動を中止していましたが、この状況だからこそ、子どもたちの不安を取り除くため、孤児への家庭訪問等は実施しました。マスクの着用や手洗いの他、家の中ではなく風通しの良い外で話す等して、感染対策を徹底しました。保護者からは「この状況で不安も多いため、家庭訪問や電話をしてくれることで、安心できるしとても嬉しい。」と感謝の声を頂きました。

ボランティア・寄付活動推進事業

4月/愛知

新しい寄付サービスを開始



4月1日から、古本寄付がブックオフの新サービス「キモチと。」に切り替わりました。4月中には、合計433点ものご寄付をお預かりいたしました。新サービスでは、オンラインでお申込みいただき、最短で次の日から集荷が可能です。これまでご寄付いただいていた古本やCDに加え、ゲームソフト、カメラやパソコン等の電化製品も対象になります。いただいたご寄付はマニラの路上の子どもたちのための活動に使わせていただきます。

イエメン事業

4月/サナア(イエメン)

栄養改善プロジェクト実施に向けた準備



アイキャンでは、イエメンの首都サナアの特に貧しい地域において、2歳から5歳までの子どもたちの栄養改善プロジェクトとして、粉ミルクの提供を予定しています。5月からの提供に向けて、対象地域の現地調査、対象とする子どもの選定作業、粉ミルクの調達等を行いました。子どもの母親からは「生活はとても厳しく、ミルクは贅沢なもののため、自分では子どもへ買ってあげることができない。」等の声が聞かれました。

日本事業(長野・自然災害事業)

4月/長野

ボランティア活動拠点の整備をしました



新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、4月はボランティアさんの受け入れはできませんでしたが、活動の再開に備えて、写真洗浄プロジェクトで使用している拠点の整備を行いました。活動拠点自体が被災家屋のため、泥出し・床はぎ・床貼り・壁貼り・消毒等の作業をし、より広いスペースを活動に使えるようになりました。今後、より多くの方々にボランティア活動に来ていただけるようになりました。